



## 特集 飯山城

あなたの好みの旅、みつけませんか



# 「飯山城」

飯山の町を中世から形づくってきた飯山城。  
戦国時代、江戸時代を経て  
桜の頃には花見客で賑わい  
秋には紅葉に彩られ  
雪の頃には子どもたちが  
城跡の斜面をスキーで駆け下りたことも。  
城郭はなくとも、今も愛され続ける城なのです。  
城からまちが生まれいできて  
今、まちに抱かれるようにある飯山城。  
かつてに思いをはせながら  
巡ってみるのは、いかがでしょう。

写真：飯山城 本丸石垣



表紙：飯山城跡公園 復元城門と桜

## 春号 / 目次

- 1 連載 会ってかし！いいやまのかお
- 2 巻頭特集 「飯山城」
- 3 絵図で見る飯山城
- 5 飯山城、その成り立ちを知る
- 8 創業300年超、城下に息づく商い
- 9 飯山城を攻めてみた！
- 13 飯山旅々。春夏のおすすめ旅
- 14 連載 いいやま うまいもの

## 会ってかし！いいやまのかお

8 MTN holidays オーナー  
ビュキャナン・リアンさん



イギリス出身のリアンさん。2005年に来日、当時は英語教師でした。スノーボード仲間と飯山を訪れたのがきっかけで、15年に飯山・戸狩へ移住。現在は1棟貸しロッジのオーナー兼ツアーガイドとして活躍しています。戸狩の魅力は「人の優しさ」とリアンさん。未経験からの宿経営が続けられているのも地元の方々の温かい支えがあつてこそとのこと。ロッジは戸狩温泉スキー場から徒歩圏内。毎冬、リピーターのゲストをお迎えすると「おかえり！」「また会えたね！」と喜びの気持ちがあふれるそうです。

● MTN holidays の「トガリン18」ではスキンスンにカフェも営業。おすすめのプラウニーを味わいにぜひお立ち寄りください

聞き手・書き手 池田南

# 歴代城主と主な歴史

★は城主

13世紀初頭	★泉氏の居城（伝承）
1553	川中島合戦（第一次）
1555	川中島合戦（第二次）
1557～	★高梨氏の居城
1557	川中島合戦（第三次）
1560	桶狭間の戦い
1561	川中島合戦（第四次）
1564～	★上杉氏の前線基地として本格的に築城
1564	川中島合戦（第五次）
1575	長篠の戦い
1578～	★武田勝頼に割譲
1582	本能寺の変
1583～	★岩井信能（上杉家臣）城代
1584	小牧・長久手の戦い
1590	豊臣秀吉 天下統一
1598～	★関一政
1600～	森忠政（支配）
1600	関ヶ原の戦い
1603	徳川家康 江戸幕府を開く
1603～	★皆川広照（城代）
1610～	★堀直奇
1615	大坂の陣
1616～	★佐久間安政（3代）
1639～	★松平忠俱（2代）
1706～	★永井直敬
1711～	★青山幸侶
1717～1871	★本多助芳（10代）
1847	善光寺地震 石垣倒壊
1849	石垣再建
1867	大政奉還
1868	戊辰戦争、飯山戦争、明治維新
1871	廃藩置県

## ④三年坂跡

南北からやってくる道が合わさる場所で、三の丸へ至る急坂がある。敵の侵入を防ぐために高い廓が造成されたので急勾配になっている



## ③桜井戸跡

鎌倉時代の伝説的な英雄・泉小次郎親衛が鶴岡八幡宮のお札をかけて祈り根元を掘ると水が湧いたとされる井戸。歴代城主も使ってきた



## ②飯山城 城門

市内丸山家に残されていた長屋門が城門ではないかと推測され、住居解体にともない移築復元された。どの場所の門かは明らかでない

## ①南大手門跡

かつての南の入り口。門は長野市の信叟寺山門として移築された。かつての大手門の位置に、現在は鳥居が建ち先へ進むと扇坂が迎える



# 絵図で見る飯山城

19世紀中頃のもの元にかきおこした絵図。この状況のまま幕末を迎えたといわれています。そんな地図を眺めながら、いざ飯山城へ。どうぞ今昔をお楽しみください。

参考『江戸時代後期飯山城下町絵図』



## ⑥歌碑

「千曲川板橋長しふりさけて越後境の山見ゆるかな」病氣療養のため島木赤彦の紹介で飯山に滞在した諏訪市出身の歌人、土田耕平による



## ⑤三の丸跡

武士が駐留して城を守った平坦な場所で、かつては土塁・土塀によって囲まれ、物見櫓の二重櫓のほか、武器蔵や初蔵があったとされる



## ⑦二の丸跡

江戸時代御殿があった場所。城主の公邸で、藩の儀式などはすべてここで行われた。江戸前期、松平氏の頃に裏門の坂口門・坂下門がつくられ、千曲川沿いの馬場や矢場へ直接行き来ができた

## ⑧本丸跡(葵神社)

当初、城主の居館が設けられた場所。廃城後の明治16(1883)年、最後の城主、本多家の中興の祖・広孝を祀る葵神社が建てられた





飯山市ふるさと館  
望月静雄 館長

右頁／移築復元された城門。長屋門として改修されていたものを、資料を元に忠実に復元した。下右・下左／本丸の出入口の虎口と呼ばれる場所は防衛と攻撃のために枡形が配された。門や口を二重に構えて簡単に入られない工夫



# 飯山城、 その成り立ちを知る

より深く飯山城を知るために、2024年に「飯山城－築城460年記念－」秋季企画展も開催した飯山市ふるさと館の館長・望月静雄さんにお話をうかがいました。

## 越後と信濃の軍事交通の要

城といって思い浮かべるのは、江戸時代に築城された石垣と堀に囲まれた天守閣のある城ではないでしょうか。飯山城はそれより以前の中世に完成した城で、基本的には土でできた城です。

13世紀、鎌倉幕府に仕えた泉小次郎親衡の居城として築城されたのがはじまりともいわれています。戦国時代には飯山市の南に位置する現在の中野市に拠点を置いていた高梨氏が武田氏に追われて飯山城に入ります。さらに、越後の上杉氏が対武田の信越国境警備の前線基地として本格的に築城しました。完成したのは永禄7(1564)年10月1日とされ、令和6(2024)年に築城460年を迎えました。

## 自然地形に守られる城

残丘と呼ばれる地形を利用し、急峻な崖に直角に近い石垣を築き、周辺には一重の堀を配した城です。さらに東に千曲川、北に皿



三の丸から望む千曲川。川岸には馬場や矢場のほか船場や茶屋もあったが、かつてはもっと川が城に近かったと想像される

川、西に湿地帯、その奥には関田山脈を擁する、自然地形を巧みに利用した自然地形に守られた城でもあります。

北側から三の丸、二の丸、本丸を置いた梯郭式で、「うしろ堅固の城」と呼ばれ、「攻めるに難しく護るに易い城」ともいわれてきました。実際、永禄11年には武田氏が飯山城付近まで攻め込み、泉氏や地侍などの飯山衆と越後の上杉軍が立ち向かうこととなりましたが、このときも飯山城の堅固な構造で難を逃れています。

## 戦国時代を生き抜く

江戸時代の絵図を見ると正門の大手門は南にあります。築城時を配置するというまちづくりを当初から意識的に行ってきたことがうかがえます。

現在でも城下5カ町は疫病を祓う夏の祇園祭が行われ、周辺の集落では収穫を祝う秋祭りが行われているのも、成り立ちの違いが見て取れます。集落の秋祭りは江戸時代から受け継がれているもので、神楽舞などそれぞれに個性が見えががあります。ちなみに飯山市では小菅神社が建つ小菅地区も古くから栄えた地で、ここでも祇園祭が執り行われています。

松平氏以降、青山氏の支配下では最大の4万8千石にまでなりましたが、最後の藩主・本多氏の頃には2万石となり、周辺の武家屋敷に空き家・空き地が目立っていました。ことも絵図からわかります。そして迎えた明治元(1868)年、旧幕府軍の衝鋒隊の攻撃を受けた飯山の城下は半分ほど燃やされてしまいます。飯山の戊辰戦争、通称飯山戦争といわれています。ここで焼かれなかったら町並みが残っていたかというところとも限

は北側にありました。上杉の命で築城されたため、上杉の居城がある北の越後側が正面となるためです。堀も南の方が幅広で、攻撃に備えただろうことが絵図からうかがえます。大手門は江戸時代に入って平和が訪れた頃、城下町が広がる南側に移されました。一度は武田氏の難を逃れた飯山城ですが、天正6(1578)年に上杉景勝と武田勝頼の和睦により一時的に武田領となった歴史もあります。和睦とはいえ戦乱の世、今度は武田氏が飯山城を対上杉の前線基地とすべく、大改修を行いました。たとえば北側に数多くつくられた枡形や、本丸入口に見られる虎口枡形などは武田流といわれる築城技術です。現在は埋め立てられています。北の三日月堀も当初にはなく、武田氏によって普請されたといわれています。

その後も、戦国時代には織田軍による損壊もあり改修を重ね、上杉の会津移封後は関、皆川、堀、佐久間、松平、永井、青山、本多と城代・城主が変わりながらも受

## 飯山城下のまちづくり

最古の絵図は1630年代と推定され、その後、1640年頃、1680年頃、そして19世紀頃の絵図が残されています。絵図の変遷から、湿地だった西側の土地が1680年頃には埋め立てられ、武家地となっていることがわかります。武家屋敷のほか公共施設なども設けられ、さらに西と南に城下町が発達していきました。まず、上町、本町(下町)、肴町(かままち)の3カ町がつくられ、その後、愛宕町(あたごまち)と伊勢町の2カ町ができました。関田山脈の麓にはその時々々の藩主が菩提寺をはじめとした寺を勧請しました。さらに周辺は、農民が暮らす村々となります。

こうして1640年頃には現在に続く城下町、寺町が形づくられはじめ、完成したのは松平氏の頃といわれています。城の守りを固めていくためにも、城のまわり

# 創業300年超、城下に息づく商い

飯山城下を支えた商家の数々。  
形を変えながらも、江戸の頃の文化を受け継ぎ今に至る店をご案内します。

鰻

うなぎ専門店 本多



飯山市飯山福寿町 1117 ☎ 0269-62-2213  
11～19時 木曜休

## 家老が幕末を生き抜くために

最後の城主・本多氏の筋筋で飯山藩の家老が祖先。廃藩の際に何か事業をと鰻屋を開業。かつて鰻は千曲川で獲っていましたが明治の治水で激減。東京から電車で運んだ時期を経て今は九州を中心に極上の品を取り寄せ、店脇の生簀で掛け流しの地下水に放ちます。水が良いので臭みは一切なく、さばいても動き続ける新鮮さでふっくらとした身が特徴。当代の松岡友貴さんの思いで、小さな子も含め3代で訪れやすい店づくりが進められています。



甘

## お殿様に納めた和菓子の技をつなぐ

名物「千代の梅」は甘い餡を求肥で包み、さらに香りさわやかな紫蘇の葉で包んだ和菓子。菓子匠大升屋勘助が江戸の頃に編み出したもので、時の城主・本多氏が名付け親とも。大升屋で修業した喜楽堂初代が製法を受け継ぎ、大升屋なき今もその技を伝えています。茹でた小豆の皮をむくことで上品な味と色に仕上げます。似た菓子上茨城の「水戸の梅」があります。参勤交代の交流で生まれたのかと想像するのも楽しいものです。



飯山市飯山 1201-2 ☎ 0269-62-3061  
8～18時 不定休

喜楽堂

醸

加賀屋醸造



飯山市飯山 3142 ☎ 0269-62-3010  
8時30分～19時30分 日曜定休

## 越後から移り酒屋から味噌屋へ

3代目の諏訪幸一さんと4代目の博士さんがご家族中心に営む味噌蔵。飯山藩主の佐久間安政が新潟・高田の上人様を飯山の本光寺に招いた際にお供でやってきたそう。造り酒屋、呉服屋を経て味噌屋となって約100年。ほかの蔵では増えない蔵付きの特別な乳酸菌と白もやし(タネ糶)を用いて天然醸造します。まろやかな1年熟成とコク深い3年熟成とがあり、常連客が量り売りで買い求める、変わらぬ味と商いがここに 있습니다。



3年に1度の小菅祇園祭で執り行われる柱松柴燈神事の様子。国指定重要無形民俗文化財

かつての農村部にある奈良沢神社に伝わる秋祭。大天狗が大松明と刀を舞うほか、さまざまな舞が奉納される



## 飯山城の歩き方

りません。というのも、家々が建て込んでいて当時のほかの城下町と同様、大火の多い町でもあったからです。明治19年にも、昭和27(1952)年にも大火が起きています。昭和の大火後、防災まちづくりが行われて現在に至っています。

廃城にともない、建物の取り壊しや移設が行われました。ただし城の規模や、扇坂、三年坂などの地形もそのままに残ります。石垣や移築復元された城門などとともに、その全貌を思い浮かべることが出来る城跡であり、現在は長野県史跡に指定されています。中世に築城された城でこれほどきれいに残っているのはめずらしく、全国から見学に訪れる人がいるほどです。

現在、駐車場に停めて歩くと、すぐ本丸へと入ることができてしまいます。ここはひとつ、ぐるっと回って南の大手門から入城し、帯曲輪を進み、三の丸、二の丸、



明治維新ののち、飯山城を守るかのような静謐なたたずまいの葵神社

そして本丸へと順に進む「正しい歩き方」をおすすめします。江戸時代の人々が大手門から右手の高い土塁を見上げながら入ったことを思うと感慨深いものがあります。土塁の上から矢や石が飛んできたなら、ひとたまりもないことも確信できるでしょう。急坂の三年坂を上がると、平らに整備された三の丸から千曲川や飯山高校のグラウンドが見晴らせます。その急坂にも、敵軍の侵入はそう簡単なことではない思うこととしましょう。この急坂をかつて高橋の生徒さんらがスキーの練習で滑り降りたというから驚きます。そして二の丸を経て本丸へ。絵地図と見合わせながら、ぜひ飯山城の今昔をお楽しみください。



城址公園内には石垣や廓を高く築いた地形など、かつての名残が見られる



# 飯山城を攻めてみた!

攻めづらいとされる飯山城。そこで信州いいやま観光局きっての歴史マニア・真田秀平さんに、飯山城を攻めるとしたらどうするのか、妄想を繰り広げていただきました。

聞き手: いいやま旅々編集部



語り手: 真田秀平さん  
(信州いいやま観光局スタッフ)

「まずは設定を決めましょう。戦国時代の飯山は上杉対武田の戦いのなかにあり、絶対的に上杉派です。新潟ともほど近く、城も上杉景勝の命で築城したものです。そこで、上杉対武田の定番「川中島合戦」をモチーフに、**武田が押し北上して飯山までやってきた**ということにしましょう。

「兵力差が大きいので素通りしていきませんか?」

飯山城は西に関田山脈、東に千曲川に囲まれた狭い盆地にあり、素通りしづらい立地です。武田も素通り後に北の上杉軍との挟み撃ちを恐れて攻めるとしています。

「ではどう攻めてくるでしょう。考えられるのは**兵糧攻め**ですが、城内の桜井戸に水はあるので長引くかと。長引くと上杉が逆襲を仕掛けて挟み撃ちにされるかもしれません。兵糧攻めは自分たちの体力も削られますし、そうなる**と水攻め**でしょうか。堤防を築いて千曲川から水を引

けば、城内を水浸しにできるかもしれません。

「人足と時間が必要ですね」

1ヶ月ほどでしょうか。妨害もあるでしょうし、そこまでの労力を費やすかという点と確かに疑問ですね。雨が多い時季でないとなしにくいですが、となると**力攻めか謀反**になりますね。

「力攻めはどこから?」

当時の裏門の南門でしょう。しかし扇坂の右の高台から確実に石や鉄砲、矢で狙われます。**集中砲火**です。

こうなると数で勝負、**運良く当たらなかつた奴は本丸を目指せ!**と。でも結局は力攻め。面白くないですね。ほかに、ほかに何か手は…。

「ほかの入り口はいかがでしょうか。橋のあるところは有事の際は丸ごと落としてしまいますから…? **千曲川の方にもひとつ門があります**ね。ここは川を越えない

といけないし、かなり切り立っているので攻めるには難所ですが、二の丸に直結している。**なるほど…分かりました、陽動作戦でいきましょう。裏門から攻めると思わせて、この難所から攻め込み直で本丸を落とす。**

「坂口門と坂下門ですね。そのためにはこれらの門があることを知っていなければならぬ。戦国時代は敵に知られないよう城内図をつくらなかつたという話もありますから、**内部の裏切り者が門のありかを漏洩**しつつ、裏門から敵が来たぞと注意を逸らすというのはいかがでしょう。

「裏切り者はどなたでしょう?」



南大手門を抜けたとしても右手の西廓から飯山勢に迎え撃たれてしまうだろうと真田さんは想像する

たとえば一帯の地侍は上杉に何百年も仕えてきたわけでもありません。自分や家族を守るために**日和見しながら上杉を裏切る**ことはあり得るかもしれません。ただ、武田に領地を奪われて飯山に逃げてきた人たちも多いので、**「憎き武田」と思っている人の方が多かった**ですね。

「今でも飯山の武田嫌いはかなり強いですよ」

「そうなんです。むしろ上杉に勝つてもらって領地を取り返したはず。しかし**武田は調略を得意**とし、川中島でも合間に調略を

繰り返しました。当時、寝返りはよくありましたし…、というわけで結論はこちらです。

**裏門から力攻めをする**と見せかけて、**武田が得意とする調略で内部情報漏洩**。坂下門・坂口門から急坂を駆け上がって**本丸をひと突き**



「武田の赤備えが攻め上がる! 飯山はどうなるのでしょうか!」

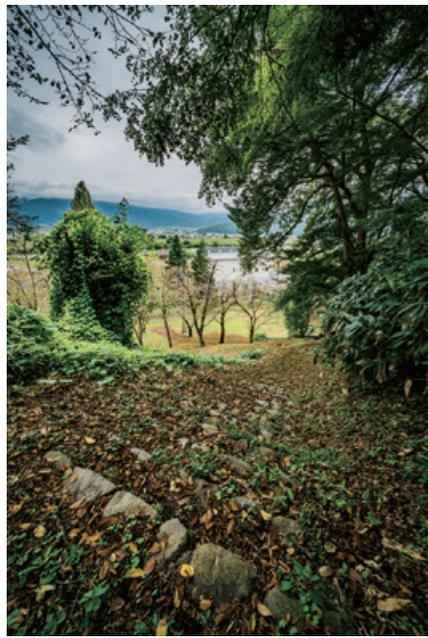
飯山だけにとどまりません。勢いついた**武田がさらに北上**して上杉を倒して天下を取るとい

「飯山が守り切つたら?」

武田を壊滅させるくらいは痛手を負わせられたら、上杉が南下し、**真田も上杉に寝返って上杉天下**説…つまりまた越後江戸説が浮上するかもしれません。

しかし越後、信濃、甲斐と、南北に長くて守るには大変。結局、領地の奪い合いで戦国時代が長引き、たどる道筋は違えど史実と同じところに行き着く気がします。

戦争が長引いたら、飯山のまちづくりはもつと後ろ倒しになったはず。そうするとここまで栄



坂口門跡の付近から、坂下門跡方面を望む。今でも歩いて降りるのをためらうほどの切り立った急坂

えなかつたかもしれません。

「戦争がないというのは素晴らしいことですね。おっしゃる通りです。攻めてみて分かったことは**「攻められなくてよかったね」**ということでした。今の世界線でよかつたです。

## 後日談…

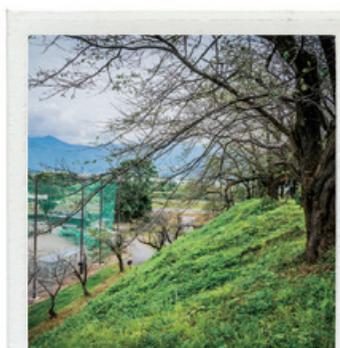
この壮大な「妄想」を、飯山市ふるさと館の望月館長に聞いていただきましたところ…  
「残念ですが、あの坂は登れません。千曲川を甲冑で渡ることは不可能ですし、坂の下には馬場もあって見張りもいました。なにより坂があまりにも急です。そもそもあの通路ができたのは江戸時代です。したがって飯山城は落とせません。小さくとも難攻不落なのです」と笑顔で一蹴でした。  
しかしながら「飯山城を攻めてみた!」ところ、壮大な妄想を繰り広げ、もうひとつの戦国時代を生きたような感覚を楽しめました。皆様も史実と照らし合わせたり、絵図を眺めたりしながら、ぜひ難攻不落の飯山城、攻めてみるのはいかがでしょうか。

飯山城を訪れるときに、あわせて知っていたら  
もっと飯山城を、飯山のまちを楽しめるはずです。



桜の名所

4月中旬〜下旬400本もの桜が城を包みます。  
開花期には飯山城址さくらまつりも開催



長野県スキー発祥の地

飯山高校につながる三の丸の急坂で  
生徒らがスキーの練習もしました



城 terrace

飯山城址公園交流展示館として開館。  
飯山城の歴史展示のほか休憩もできる場所です



御城印

飯山城下町開町440年を記念して2023年に  
発売。御朱印ならぬ御城印、城を訪れた証しです



城内の武道館

武士の鍛錬のために藩校が多く建てられ  
武道が推奨された名残もあるのか今も盛んです



内山紙

江戸時代初期から続く手漉き和紙。越後で高く取引  
された歴史からも地域のつながりがうかがえます

——  
もっと知りたい飯山城

## 城外に移築された城門



### 妙専寺 山門

廃藩後、飯山城内の門は商家や寺に払い下げられました。  
そのひとつ、本丸にあった裏門の不明門が神明町の妙専寺へ。  
やや南、愛宕町に建つ妙専寺の分院です。



季節の花が咲き誇る境内。本  
堂は1948(昭和23)年に  
焼失したが80年に再建

